

クレハトリ・アヤハトリの言い伝えについて

みなさんは、池田の織り姫の物語は知っていますか？ 今から 1500 年以上も昔、呉の国から池田へやってきたクレハトリ・アヤハトリという姉妹が、機織りの技術を広めたという言い伝えです。

二人は今の池田市新町から木部あたりの猪名川ほとり「唐船が淵」¹に到着します。満寿美町にある「染殿井」²という井戸で糸を染め、建石町の「星の宮」³で星明かりに照らされて機を織り、五月山の「衣掛の松」⁴で布を干し、池田のひとびとに機織りの方法を教えました。

この織り姫は、この地で亡くなると「姫室」「梅室」という二つの塚に葬られ、クレハトリは「呉服神社」⁵に、アヤハトリは「伊居太神社」⁶に祀られたと伝えられています。

この言い伝えは本当でしょうか。実は同じような物語や場所が、兵庫県西宮市や奈良県川西町など、各地に残っています。これらは、1300 年ほど前の『日本書紀』という日本の歴史書に書かれた話や、600 年ほど前の能の作品『呉服』などを元に、のちの時代につくられたと考えられています。

では、池田ではいつごろ、この言い伝えができたのでしょうか。はっきりしたことは分かっていませんが、池田に呉庭荘という名前が登場する 1000 年ほど前のころまでさかのぼるとも言われています。また、300 年ほど前の書物には、池田のクレハトリ・アヤハトリの話が紹介されていますから、そのころには現在の言い伝えがひとびとの間に広まっていたのでしょう。

ところで、池田市のシンボルマークである市章は、この物語を題材に、井戸と糸巻の形からつくられています。呉服町・姫室町・綾羽などの地名も、この物語にゆかりがあります。今も池田のまちを歩けば、物語にまつわる場所がたくさん残っていることに気が付くでしょう。



このように、池田の織り姫の物語は、あくまでも言い伝えですが、池田のまちや、その歴史・文化に今でも深くつながっている、とても大切なものなのです。

街を歩く時は、熱中症や交通事故などにじゅうぶん注意してね！



(※)「梅室」の碑はありませんが、『織り姫』の『室』という意味で、同じ「姫室」の碑が2つあるのかもしれない。